



# 平成31年 3月期第2四半期 決算短信補足説明資料

株式会社 F F R I (東証マザーズ : 3692)  
<https://www.ffri.jp>



## 会社概要

会社名： 株式会社 F F R I ( FFRI, Inc. )  
所在地： 東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階

役員：	代表取締役社長	鵜飼 裕司
	専務取締役最高技術責任者	金居 良治
	常務取締役最高財務責任者	田中 重樹
	取締役	川原 一郎
	取締役	梅橋 一充
	取締役（常勤監査等委員）	原澤 一彦
	社外取締役（監査等委員）	松本 勉
	社外取締役（監査等委員）	山口 功作

設立： 2007年7月3日

資本金： 285,698,500 (2018年9月30日現在)

- 事業内容：
1. コンピュータセキュリティ研究、コンサルティング
  2. ネットワークシステムの研究、コンサルティング、情報提供、教育
  3. コンピュータソフトウェア及びコンピュータプログラムの企画、開発、販売、リース、保守、管理、運営及びこれらに関する著作権、出版権、特許権、  
実用新案権、商標権、意匠権等の財産権取得、譲渡、貸与及び管理
  4. 上記事業に関連する一切の業務

2014年9月30日 東証マザーズ上場

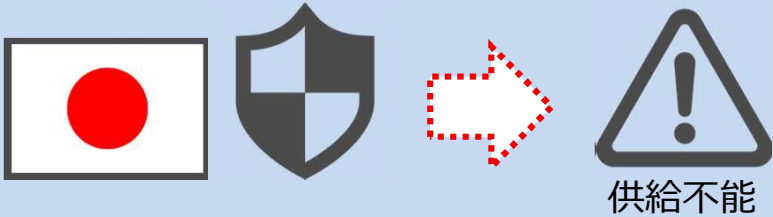


## 設立の経緯

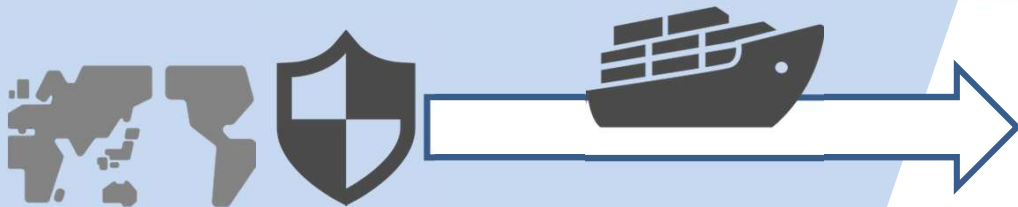
- これまで日本は対策技術を海外からの輸入に頼っていた…

セキュリティ分野

セキュリティ製品の有力な研究開発ベンダーが不在だった。



海外のセキュリティベンダーの技術を輸入して供給する。



国内に研究開発企業が不在



標的型攻撃を含む  
未知の脅威の拡大



自国で問題解決できないリスク

国産の対策技術の必要性

日本発、  
サイバーセキュリティ





## 社名とコーポレートマークに込めた思い

- 「FFRI」は、「**F**ourteen**f**orty **R**esearch **I**nstitute」の略称
- 「1440」は、スノーボード・ハーフパイプ競技におけるジャンプの回転数に由来
- 設立当時、4回転ジャンプできる競技者が存在せず、前人未到の領域への挑戦を志し、「1440（360°×4回転）」を社名に採用

Fourteenforty Research Institute



FFRI



コーポレートマーク

コーポレートマークにも「1440」の文字とスノーボードの回転をイメージした矢印で、設立当初から変わらない「**未踏の分野への挑戦**」を表現

世界トップレベルのセキュリティ・リサーチ・チームを作り、  
コンピュータ社会の健全な運営に寄与する



# 業績説明

---

## 業績サマリー

- 全体として売上・利益ともに計画どおりの進捗
- 前年同期比で四半期純利益減少の要因は税効果会計によるもの

(単位：百万円)

区分	2018/3 2Q	2019/3 2Q	増減比 (%)
売上高	780	782	0.3
営業利益 (利益率：%)	100 (12.9)	103 (13.3)	3.4
経常利益 (利益率：%)	100 (12.9)	106 (13.6)	5.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率：%)	87 (11.2)	69 (8.9)	△20.0



# 売上種類別の概況

■ 売上高 (単位：百万円)

売上種類	2018/3 2Q	2019/3 2Q	概要
プロダクト 法人向け 国内	464	508	<ul style="list-style-type: none"> <li>未知脅威対策を謳う製品・サービスが市場に多く提供され始めており、競争が過熱</li> <li>FFRI yaraiの営業強化に取り組む</li> </ul>
プロダクト 法人向け 海外	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外市場での拡販に向けた現地パートナー獲得を推進</li> <li>北米及び欧州の複数のセキュリティ・ベンダーと交渉中</li> </ul>
プロダクト 個人向け	238	192	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人向け製品の売上は計画通りの推移</li> </ul>
サービス	38	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育・研修サービス及び自動車サイバーセキュリティの案件を中心に実施</li> <li>研究開発リソース確保のため、サービス案件は高付加価値の物に限定して実施</li> </ul>

## 区分別四半期会計期間毎の売上推移

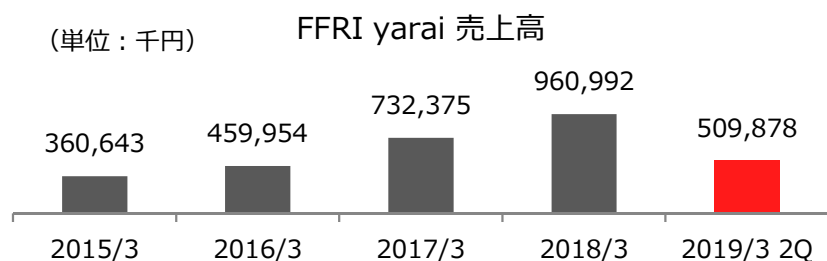
(単位：百万円)

売上区分			2018/3				2019/3			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
セキュリティ・プロダクト	法人向け	国内	243.2	255.7	274.8	263.2	270.5	272.2	-	-
		海外	0.3	0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	-	-
	個人向け		121.8	116.3	107.9	106.9	98.4	93.7	-	-
セキュリティ・サービス			8.7	33.2	35.9	103.1	10.7	35.7	-	-
合計			374.1	405.9	419.4	474.1	380.4	402.3	-	-



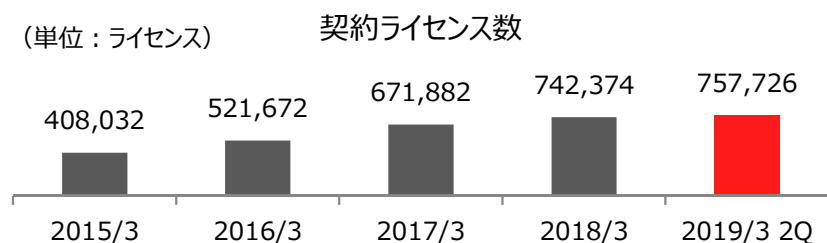


## FFRI yarai シリーズの販売状況



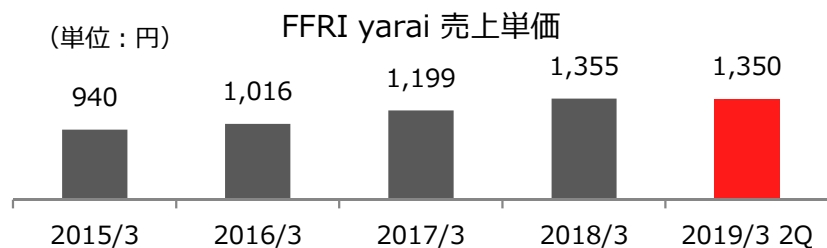
### FFRI yarai 売上高

FFRI yarai の売上は前年同期比で増加しているものの競争が過熱しており、この対応を進める



### 契約ライセンス数

前期末に比べ15,352ライセンスの増加。  
ユーザーにおける検討・導入サイクルの季節性により、上半期のライセンス増加数は少ない



### FFRI yarai 売上単価

前期までFFRI yarai売上単価に大きな影響を与えていた廉価版販売終了に関わる案件の動きが一巡

## FFRI yarai シリーズの業種別契約ライセンス数

業種	2018/3 (ライセンス)		2019/3 2Q (ライセンス)	
		割合 (%)		割合 (%)
中央省庁	169,803	22.9	169,878	22.4
その他官公庁	134,314	18.1	139,435	18.4
金融サービス	155,957	21.0	157,068	20.7
運輸	97,914	13.2	102,689	13.6
産業インフラ・サービス	49,853	6.7	51,062	6.7
情報通信	47,260	6.4	45,710	6.0
公共	23,424	3.2	23,118	3.1
その他	63,849	8.6	68,766	9.1
合計	742,374	100.0	757,726	100.0



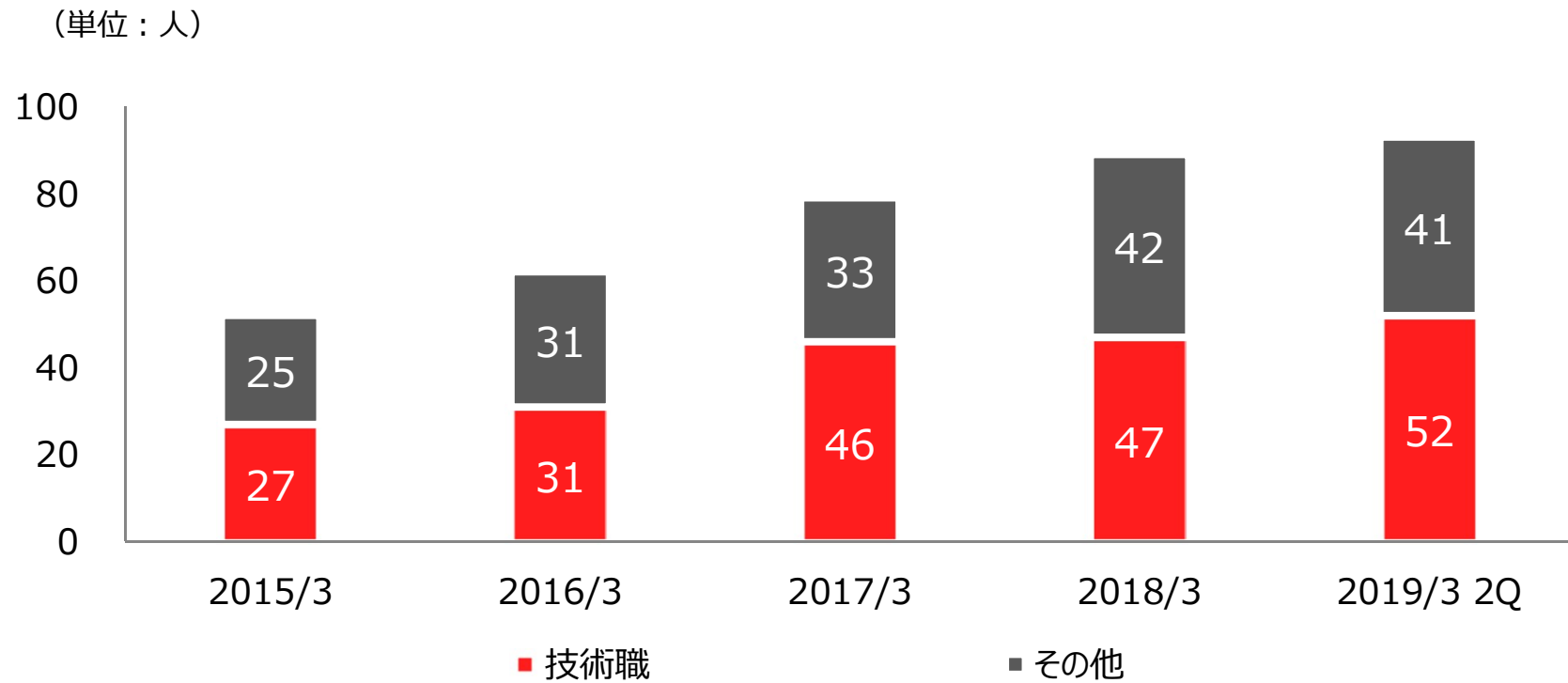
## 原価及び販管費の内訳

(単位：百万円)

費用の種類	2018/3 2Q	2019/3 2Q	増減比 (%)
労務費	135	146	7.9
経費	43	52	21.8
期首・期末棚卸及び他勘定振替	△89	△98	—
研究開発費への振替	△51	△72	—
ソフトウェアへの振替	△25	△15	—
その他の振替	△11	△11	—
売上原価合計	89	100	12.1
人件費	218	227	4.5
研究開発費	51	72	39.7
販売手数料	183	147	△19.9
その他	136	130	△4.0
販管費合計	590	578	△2.0

- 研究開発費：FFRI yaraiの機能向上に関する研究
- 販売手数料：FFRI安心アプリチェッカーの販売減少に伴い、販売代理店に対する販売手数料が減少。

## 人員数の推移



## 業績サマリー（貸借対照表）

（単位：百万円）

区分	2018/3	2019/3 2Q	増減比 (%)
流動資産	2,150	2,091	△2.8
現金及び預金	1,983	1,976	△0.4
売掛金	139	61	△56.0
固定資産	131	132	0.4
資産合計	2,282	2,223	△2.6
流動負債	718	677	△5.7
前受収益	575	547	△4.8
固定負債	451	364	△19.2
長期前受収益	442	355	△19.7
負債合計	1,170	1,042	△10.9
株主資本	1,112	1,181	6.3
利益剰余金	565	635	12.3
純資産合計	1,112	1,181	6.2
負債純資産合計	2,282	2,223	△2.6

## 業績サマリー (C/F)

(単位：百万円)

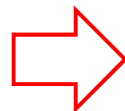
区分	2018/3 2Q	2019/3 2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	102	11
(内訳) 税引前当期純利益	100	106
減価償却費	14	19
売上債権の増減額 (△は増加)	56	78
前受収益の増減額 (△は減少)	△2	△27
長期前受収益の増減額 (△は減少)	44	△86
その他	△112	△79
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29	△19
財務活動によるキャッシュ・フロー	7	-
現金及び現金同等物の期末残高	1,836	1,976

# 2019年3月期の取組み

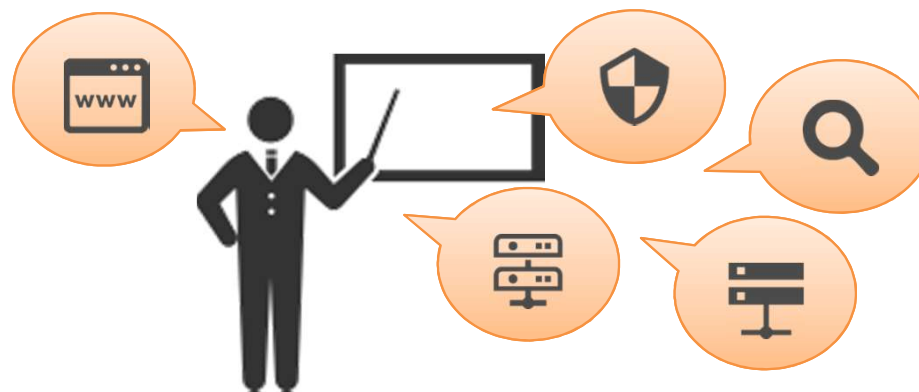
## 市場環境

多様な製品・サービスが市場に提供され、ユーザー企業では導入是非の判断が難しくなっている

### 多様なセキュリティ製品・サービス群



ユーザーへの営業強化の重要性が高まる

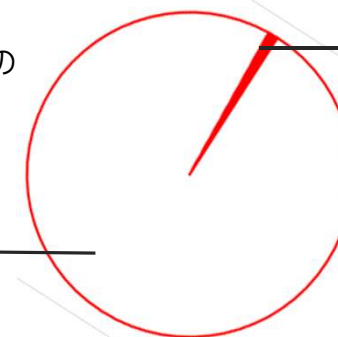


大企業以外はセキュリティ市場の空白地となっている

大企業

大企業と中小企業の  
会社数の割合

中小企業



(資料) 2017年版中小企業白書  
「平成26年経済センサス-基礎調査」  
再編加工

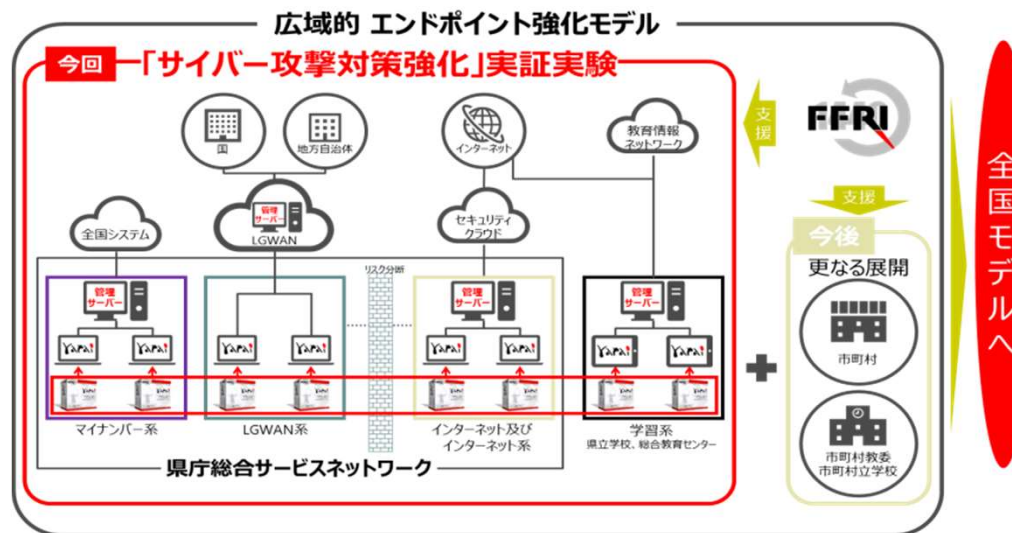




## 現在の取り組み①

### 自治体向けモデルケースを通じた拡販

徳島県と共同で「徳島発!『サイバー攻撃対策強化』実証実験」を実施  
自治体向けのセキュリティ強化モデルケースとして全国の自治体に展開



「徳島発!『サイバー攻撃対策強化』  
実証実験」概念図

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/sangyo/ict/5009977>

## 現在の取り組み②

### 海外市場への展開

海外現地企業との技術OEMを含めた提携先との交渉を進行

### FFRI yarai の機能追加

EDR機能の追加により、サイバー脅威の可視化を求めるユーザーの取り込み

### ユーザーとの距離が近い販売パートナーとの連携

株式会社TKC :

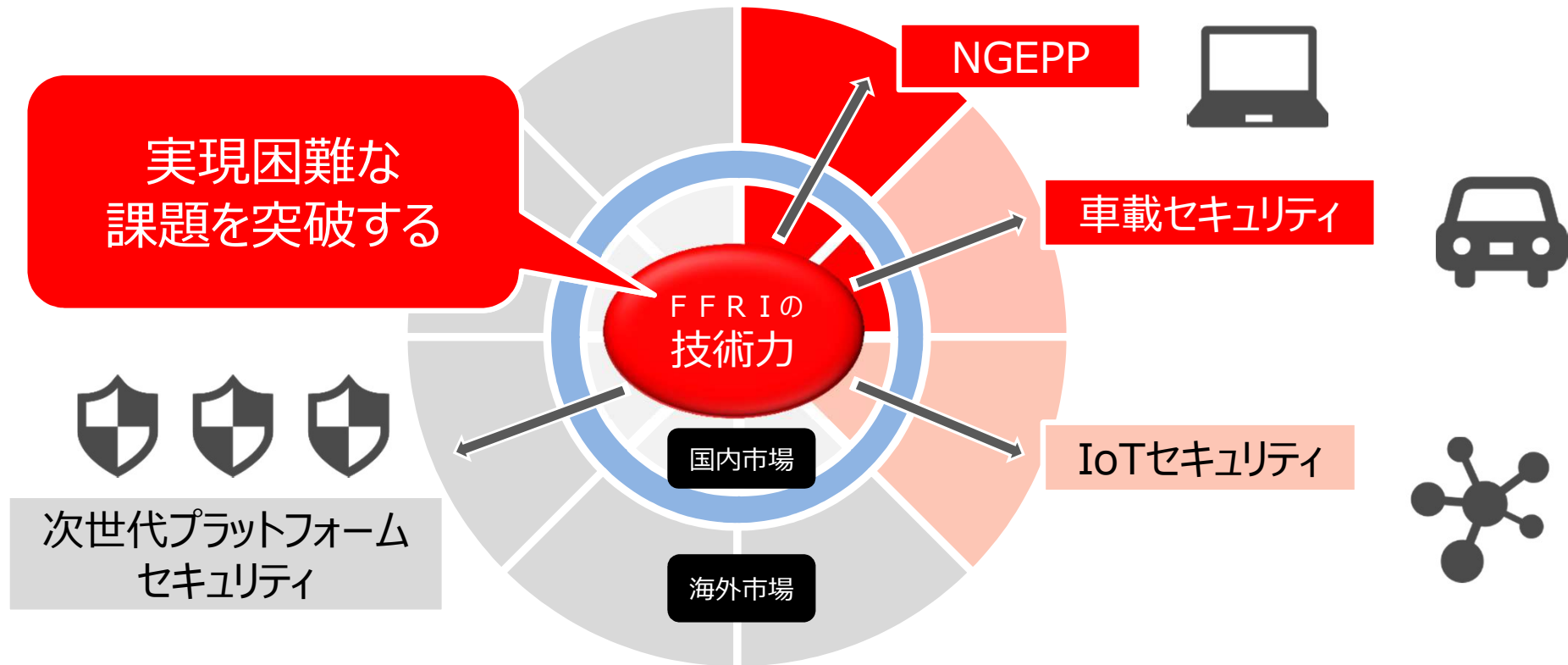
全国の契約会計事務所及びその顧問先へのリーチ

SKY株式会社 :

同社が提供する資産管理ソフト「SKYSEA」と「FFRI yarai」の機能連携

## FFRIが目指す姿

- 実現困難な課題を突破する技術力をコアに日本発の研究開発型サイバーセキュリティ企業として組織が抱える問題を解決する総合的なセキュリティサービスをワンストップで提供する。





## 2019年3月期の取り組み

セキュリティ・ プロダクト	法人向け	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FFRI yaraiの機能強化を継続実施</li> <li>・FFRI yaraiへのEDR機能追加を始めとした、ユーザーニーズへの対応とユーザビリティの向上に取り組む</li> <li>・戦略的販売パートナーとの連携強化</li> </ul>
		海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自社のリソースによる販売から、他社販売リソースの利用を含め、販売量の増加を重視した施策に取り組む</li> <li>・アジア及び欧州市場への進出取組みを継続</li> </ul>
	個人向け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B to B to C の販売チャネルを強化</li> </ul>	
セキュリティ・サービス			<ul style="list-style-type: none"> <li>・車載セキュリティ向け研究開発の実施継続</li> <li>・その他のIoTセキュリティ分野の開拓</li> </ul>



業績予想

(単位：百万円)

区分	2018/3実績	2019/3計画	増減比 (%)
売上高	1,673	1,828	9.3
営業利益 (利益率：%)	309 (18.5)	316 (17.3)	2.1
経常利益 (利益率：%)	309 (18.5)	316 (17.3)	2.1
当期純利益 (利益率：%)	222 (13.3)	204 (11.2)	△8.2

## 業績予想 (売上の内訳)

(単位：百万円)

区分		2018/3 実績	2019/3 計画	増減比 (%)	
セキュリティ・ プロダクト	法人向け	国内	1,037	1,279	23.3
		海外	2	19	707.4
	個人向け	453	350	△22.7	
セキュリティ・サービス		181	180	△0.6	
合計		1,673	1,828	9.3	



## <本資料の取り扱いについて>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や弊社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。